

(別紙3)

文起第922号-1

令和元年9月26日

(施設名) 米子市埋蔵文化財センター
(指定管理者) 一般財団法人 米子市文化財団
(代表者名) 理事長 杉原 弘一郎 様

米子市長 伊木 隆 司

平成30年度「米子市埋蔵文化財センター」指定管理者業務評価書

施設名	米子市埋蔵文化財センター
施設所管課	米子市経済部文化観光局文化振興課
指定管理者名	一般財団法人米子市文化財団
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日(3年目)

【モニタリング終了後の総評】

【施設所管課】

協定書及び事業計画書の水準を遵守し、施設の適切な運営・維持管理を実施している。特に、利用促進に関する分野では、いろいろなメニューのソフト事業を実施し学校・公民館に対する利用案内を行い、施設利用者は減少したが、共催・連携事業の参加者が増加したことは評価したい。今後も現在の水準に加えこのほかの項目についても様々な取り組みを実施し、更なる水準の向上を期待したい。

【第三者評価】

① 施設について

- ・妥当と考えます。
- ・基本的に観光施設ではないので、現状で良いのではないかと。
- ・旧学校舎を上手に活用している。
- ・施設利用者数が大幅に減少しているが、共催・連携事業の参加者数が増加している。施設利用者の増加につながればよい。
- ・建物内外の環境整備に気を配り、利用者の大幅な増加も認められ、日々の努力が感じられる。
- ・場所が分りづらく、初めて行く人には、案内の表示も見つけにくいと思われる。展示室に冷房がなく普段は電気も点いていない。展示を見に来た人がいると職員の方が点灯してくれるが、あまり来訪者がいないのかと思うと残念である。展示されている出土品は貴重なもので、展示の解説も分かりやすく興味深いだけに、もっと、来訪者が増えて欲しいと思う。
- ・アンケートから見えるのは、利用者が10代、・・・ターゲットは、マニアが増えることを期待します。

② 管理について

- ・妥当と考えます。
- ・良好。
- ・協定書に基づき、日常の施設の設備点検や修繕業務等適切に行われている。
- ・基準に基づく修繕業務や協定書の順守及び日々の適切な維持管理が認められる。清掃や庭木の維持管理も適切に行われ、良好な施設内外の環境が保たれているようで良い。
- ・適切に管理されていると感じた。
- ・適正（前庭の清掃強化も努力がみてとれる）。

③ 事業について

- ・妥当と考えます。
- ・展示スペースをもっと増やされてはどうか。見学者が少ないが、それなりの知識を持った方が来られると思うので、より多くのものが目に触れるようにした方が親切なのでは。
- ・展示室をもう一室欲しい。
- ・現在発掘事業がないので、一般住民の関心を集めには大変であるが、企画及び連携事業を展開し参加利用者を多くし、収入増にもつないでいる。
- ・事業計画に沿って適切に実施されている。
- ・日々の利用促進のための情報発信に工夫と努力が見られる。
- ・「センターだより」の内容が充実していて面白い。
- ・遺跡の発掘、調査、出土品の分析、研究、市内外の研究者、施設との交流、地域貢献など、それぞれの分野で事業を推進している点は高く評価できる。
- ・共催・連携事業参加の増等で事業参加者の増員がみられ、好ましい。

【今後の業務改善方策等の特記事項】

【施設所管課】

引き続き適切な施設管理に努め、今後も利用者の一層の増加につながる展示事業や様々なソフト事業が継続的に実施されることに期待したい。

【第三者評価】

- ・福市は法勝寺、日野川に囲まれた丘陵地、これを総合したガイドや調査が面白いと思います。
- ・国道沿いに「埋蔵文化財センター」の施設への順路案内（道標）が欲しい。
- ・米子市の埋蔵文化を扱う重要な部署でもある。現在も行われていることだが、学校との連携を深める工夫を望みます。授業時間を確保しようとしている学校との連携は難しいかもしれないが、夏休みの自由研究にも利用してもらえるよう小中学校との一層の連携と、体験し研修・検証できる講座の開設を望みます。

(別紙2)

平成30年度下期「米子市埋蔵文化財センター」モニタリング評価表〔令和元年8月〕

施設名	米子市埋蔵文化財センター	
施設所管課	経済部文化観光局文化振興課	
指定管理者名	団体名	一般財団法人 米子市文化財団
	所在地	米子市末広町293番地
指定期間	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日	
選定方法	公募・ 非公募	
施設の設置目的	郷土の歴史に関する市民の知識及び教養の向上に資するため。	
主な実施事業	埋蔵文化財の適切な保存管理、整理研究等の調査研究、調査成果の展示や普及活用事業を行う。	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
I 履行の確認 (60点)			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1)管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がなされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	協定書に定められた人員配置がなされ、緊急時における連絡体制、マニュアル等が整えられている。 [資料等確認]
(2)職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	人権研修等に職員を計画的に派遣し、職員の資質・能力の向上に努めている。[資料等確認]
(3)利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	B	学校や公民館向けの利用案内の配布や、広報紙等による展示・講座等の周知に努め、利用者の拡大に努めている。 [資料等確認、立入調査]
2 利用者に関する業務			
(1)利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか ※1	A	施設利用者数は、前年度よりも大幅に増加している。

			[資料等確認]
(2) 利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	B	窓口対応や来館者アンケートの実施を通じて、要望等の把握に努めている。 [資料等確認、立入調査]
3 保守点検及び清掃等の業務			
(1) 保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書の基準に基づき、消防設備等について適切な保守点検が実施されており、第三者に行わせる業務も必要最小限である。 [資料等確認]
(2) 清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書に基づき、日常の清掃業務や点検が適切に行われている。 [資料等確認、立入調査]
(3) 保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	協定書に基づき、保安・警備業務が適切に行われており、第三者に行わせる業務も必要最小限である。[資料等確認]
(4) 修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	A	基準に基づき、玄関ガラス、空調機の修繕など。適切な修繕業務が実施されており、第三者に行わせる業務も必要最小限である。 [資料等確認、立入調査]
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか	B	事業計画書に沿って、展示事業やガイドウォーク、考古学講演会といった事業を適切に実施した。 [資料等確認、立入調査]
5 情報公開・個人	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	情報公開の実施体制、管

情報に係る措置			理体制を整備し、個人情報取扱方針を作成し、個人情報を慎重に取り扱っている。[資料等確認]
6 管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	B	施設の在り方を正しく認識しており、事業計画書に具体的な提案がなされている。[資料等確認]
II サービスの質の評価 (25点)			
1 利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B	事業計画書により、利用者への具体的なサービス向上策が提案されている。 [資料等確認]
2 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	A	日常の清掃業務に加えて、前庭の植木の剪定、老木の伐採、花壇の整備等を実施しており、良好な状態で施設利用が行われている。 [資料等確認、立入調査]
3 運營業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	B	事業計画書に利用者への具体的なサービス向上策が提案され、利用者への接客・対応も適切であるため。 [資料等確認]
4 自主事業	実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか	B	実施された事業は多岐にわたっており、施設の設置目的にも十分かなうものであった。 [資料等確認、立入調査]
5 施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	B	施設設置目的の達成に資するものであった。 [資料等確認]
III サービスの安定性の評価 (15点)			

1 事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2	B	妥当である。
2 経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3	B	妥当である。
3 団体等の経営状況（年度ごと）	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4	B	妥当である

<p>【総評（所管課評価）】</p> <p>協定書および事業計画書の基準を遵守し、施設の管理・運営を適切に行っている。中でも、施設の維持管理に関する業務は優れた水準であり、屋内外の清掃や整備、設備の修繕、植栽の管理などを実施し、良好な状態で施設利用ができるよう日々努めている点は高く評価できる。今後は、それ以外の項目についても更なる水準の向上がみられることを期待したい。</p>	<p>合計点 (66) 点 / (100) 点 × 100 = (66)</p> <p>平均点 (3.3) 点</p>
---	---

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

※特記事項欄は、評価を行った確認方法（例：立入調査、台帳確認、資料等確認）と当該評価を行った理由を記載する。

※総評欄は、事業計画書等との整合性を検証し、評価、業務の改善方策等を記入する。

【補足資料】埋蔵文化財センター

※1 利用状況

項 目	本年度〔平成30年4 ～平成31年3月〕A	前年度〔平成29年4 ～平成30年3月〕B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載
開館日数	249	249	0、100（%）	
施設利用者数	640	1,040	△400、61.54（%）	施設・設備利用者の減
自主事業参加者数	4,603	3,066	1,537、150.13（%）	共催、連携事業参加の増
施設稼働率	100	100	0、100.00（%）	
事業開催数	12	12	0、100.00（%）	

※2 事業収支

(1) 収 入

項 目	本年度〔平成30年4 ～平成31年3月〕A	前年度〔平成29年4 ～平成30年3月〕B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載
指定管理料	3,029,000	2,941,000	88,000、102.99（%）	
自主事業収入	12,700	15,800	△3,100、80.38（%）	
雑入	60,000	60,280	△280、99.54（%）	
合 計	3,101,700	3,017,080	84,620、102.80（%）	

(2) 支 出

項 目	本年度〔平成30年4 ～平成31年3月〕A	前年度〔平成29年4 ～平成30年3月〕B	対比 A-B、A/B	対比が±20%を超える 場合は増減理由を記載
人件費	825,761	857,364	△31,603、96.31（%）	
施設費	1,303,352	1,483,029	△179,677、87.88（%）	
通信運搬費	104,318	110,321	△6,003、94.56（%）	
手数料	16,740	22,032	△5,292、75.98（%）	備品処分手数料の増
備品購入費	0	256,140	△256,140、—（%）	
消耗品費	240,706	142,974	97,732、168.36（%）	展示用品、維持管理用品の増
修繕費	163,132	300,110	△136,978、54.36（%）	施設設備高額修繕費の減
燃料費	16,698	17,317	△619、96.43（%）	
光熱水費	97,758	84,245	13,513、116.04（%）	
賃借料	125,480	85,270	40,210、147.16（%）	維持管理用高所作業車賃借
租税公課	156,200	82,300	73,900、189.79（%）	支出増による増
委託料	382,320	382,320	0、100.00（%）	
事業費	341,375	465,644	△124,269、73.31（%）	

旅費交通費	3,320	9,960	△6,640、33.33(%)	講演会に係る出張旅費の減
消耗品費	186,172	169,095	17,077、110.10(%)	
印刷製本費	129,600	260,020	△130,420、49.84(%)	年報、ペーパークラフトの減
賃借料	11,730	13,190	△1,460、88.93(%)	
負担金	10,553	13,379	△2,826、78.88(%)	財団施設連携事業負担金の減
合 計	2,470,488	2,806,037	△335,549、88.04(%)	

※3 経営状況分析指標

項 目	本年度〔平成30年4 ～平成31年3月〕A	前年度〔平成29年4 ～平成30年3月〕B	対 比 A-B、A/B	備 考
① 事業収支	631,212	211,043	420,169、299.09(%)	
② 利用料金比率	0	0	-、-(%)	
③ 人件費比率	33.4	30.5	2.9、109.51(%)	
④ 外部委託費比率	15.5	13.6	1.9、113.97(%)	
⑤ 利用者当たり管 理コスト	471	683	△212、68.96(%)	
⑥利用者当たり自治体 負担コスト	4,732	2,827	1,905、167.38(%)	

①事業収支：(収入-支出)

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていのかどうか確認する。赤字の場合は、管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：(利用料金収入/収入)

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：(人件費/支出)

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、又は費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：(外部委託費合計/支出)

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：(支出/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：(指定管理料/延べ利用者数)

利用者1人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

※4 団体等の経営状況(年度ごと下期に実施し、上期では行いません。)

項目	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	備 考
①自己資本比率	44.1	57.7	51.0	55.1	44.9	
②流動比率	182.1	304.5	238.4	281.4	191.7	
③固定長期適合率	15.5	15.3	15.9	15.6	11.2	
④総資産経常利益率	-1.8	-6.5	7.6	2.3	4.4	
評 価	(以上の指標を参考に評価する。)					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算する。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載する。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

$$\text{自己資本比率 (\%)} = \text{自己資本} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$$

②流動比率

団体の短期的な支払能力を示す指標。1年以内に現金化できる試算を「流動資産」、1年以内に支払を要する負債を「流動負債」といい、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多いほど、支払能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

$$\text{流動比率 (\%)} = \text{流動資産} \div \text{流動負債} \times 100 \quad \text{【例】 } 1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、又は換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

$$\text{固定長期適合率 (\%)} = \text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資本}) \times 100 \quad \text{【例】 } 900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけ経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

$$\text{総資本経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資産} \times 100 \quad \text{【例】 } 200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$$

■貸借対照表（例）

【資産の部】		【負債の部】	
流動資産		流動負債	
現金及び預金	400	買掛金	400
受取手形	500	短期借入金	300
有価証券	200	流動負債合計	700
流動資産合計	1,100	固定負債	
固定資産		社債	300
建物及び構築物	200	退職給付引当金	200
土地	500	固定負債合計	500
投資有価証券	200	負債合計	1,200
固定資産合計	900	【純資産の部】	
		資本金	600
		利益余剰金	200
		純資産合計	800
資産合計	2,000	負債純資産合計	2,000

■損益計算書（例）

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

特になし

6 利用者アンケートの結果

29年度アンケート（米子市埋蔵文化財センター）			
問1 当館の所在をどこで知りましたか			
観光案内等	0人		
ネットから	0人		
知人から	1人		
その他	5人	（親	学校）
問2 当館場所はすぐわかりましたか			
すぐわかった	6人		

